

掲 示 板

2018 年度第 2 号 通巻第92号 2018年 9月 15日



イロハモミジ

中野敬二

第2期リニューアル、企画展示、アキアカネ調査、やっぱり夏は面白い企画が盛りだくさんでした！

今年は9月になって急に涼しくなってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。今夏は第2期リニューアル後初の夏休みを迎え、全国から多くの方が博物館に訪れてくれました。特に、新しく生まれ変わった「ディスカバリールーム」は、連日多くの家族連れでにぎわいました。また、その隣の「おとなのディスカバリー」には、多くの生き物の剥製や標本が展示され、生き物好きの来館者が、拡大鏡などを使って丁寧に標本を見ているのがとても印象的でした。

今年の企画展示「化石林」では、古琵琶湖から縄文時代までの琵琶湖周辺における植物相の移り変わりについて、化石を中心とした展示が展開されています。巨大な埋没林の一部や貴重な植物化石は一見の価値があります。また、展示室を一回りすると、時代ごとに植物の種類が異なっており、気候の変化と植物の移り変わりについて理解が深まると思います。展示会は11月25日まで開催していますので、興味のある方は是非、博物館にお越し下さい。

毎年恒例のアキアカネ調査は8月4日（土）に行いました。今年のびわ湖バレイは、山の上とは思えないほど暑く、アキアカネも日陰にいるものが多かったような気がします。今年は子ども達の活躍もあって、これまでで一番多くトンボを捕まえ、マーキングすることができました。詳しくは2ページをご覧ください。オオキンケイギクの調査は、7月末で調査を締め切りました。現在、スタッフの柁島さんが調査結果をまとめてくれています。滋賀県では「外来生物調査隊」事業などでオオキンケイギクについても調べられていますが、今回の結果が県内の分布状況の最新版になります。詳しくはこれから発行される「フィールドレポーター便り」をお待ちください。

さて、今後の予定ですが、掲示板の最終ページに載せております。フィールドレポーターとして積極的に活動してみたいという方は、第1・3土曜日の午後1時半から博物館交流室で定例会を行っていますので、是非お越し下さい。

フィールドレポーター担当学芸員 大槻 達郎



.....



.....

も く じ

.....



.....

	やっぱり夏は面白い	大槻達郎	P 1	5	草津川跡地公園ほか	久保和友	P 8
1	2018 アキアカネマーキング 調査	柁島昭紘	P 2	6	De 愛ひろば見聞	中野敬二	P 9
2	ミノムシとの出会い	津田國史	P 4	7	滋賀県・考	近江心気郎	P10
3	今年のセミ 雑感	Big くり	P 5	8	おとなのディスカバリー	大槻達郎	P11
4	「材木ヶ丘」中間報告	柁島昭紘	P 6	9	お知らせ	F R S	P12

1. 2018 年度夏、アキアカネマーキング調査 in びわ湖バレイ（報告）

FRS 栴島昭紘

大津市の気温が37℃前後を記録していた週の8月4日（土）、晴天に恵まれ、第10回目の今年も予定通りびわ湖バレイでのアキアカネ調査を行いました。参加された方は17名で内お子さんが3名と賑やかなメンバーになりました。びわ湖バレイのロープウェイ乗り場に多勢の列ができていて、少し待ちましたが、歓声でにぎやかなロープウェイに乗って打見山山頂（1108m）に着くと、期待通り涼しい風が心地良いです。日陰に集まって、調査前の説明をしました。八尋学芸員からトンボの説明していただき、アカトンボの種類や生態、アキアカネの雄と雌など見分け方について学習しました。つづいて、マーキング調査、記録方法の説明をしました。



午前中の調査は打見山リフト横の琵琶湖側登山道を下りながら約1時間行いました。前方に琵琶湖が広がり絶景の場所です。日差しが暑くアキアカネは少ない感じでしたが木陰にいるのを見つけて網を動かしてマーキングしました。

昼の休憩は蓬莱山リフト登り口広場（笹平）で三々五々お弁当を頂きました。

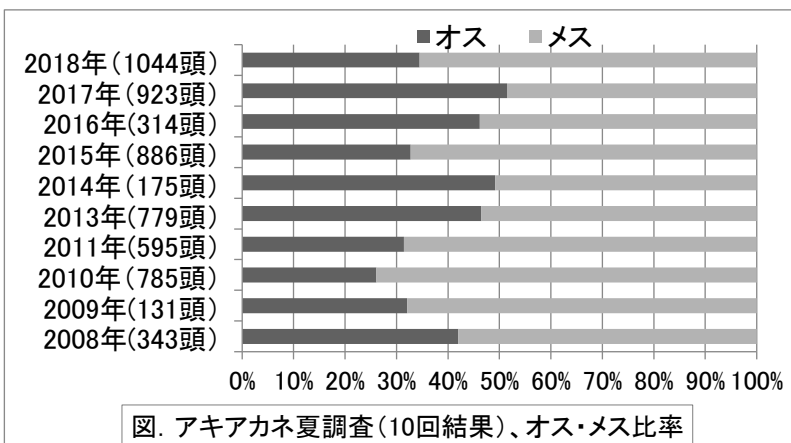
午後の調査は笹平西側のゲレンデの予定でしたが、飛んでいる数が少なく、また日差しが暑かったので変更して、打見山ゲレンデリフト横の琵琶湖側登山道を上りながら行いました。木陰には涼んでいるアキアカネが多く見つかりました。



打見山山頂の案内所の前に集合して、休憩しながら記録票の整理をしたり談笑をしたりして、皆さんが元気で楽しんで頂けたようでしたので良いイベントになりました。

マーキング調査結果次の表の通りです。今回は10回目ですが、1,000頭を超えました。この結果でメスがオスに比べて数が多かったなので、実施した10回の結果を比較してみました。次の図ですがメスが多い傾向です。

午前、約1時間	456頭
午後、約1時間半	588頭
合計	1,044頭
メス	684頭
オス	384頭



皆さんが記録票に書いて下さったコメントを紹介します。

☆おもしろい観察会でした。トンボの生態がわかっていたらもっと楽しいかもしれませんね、もっと一生を知りたいです。

☆猛暑の今夏山頂は少々涼しい。体力ヘトヘト御疲れさまでした。湖がかすんで遠景として、美しかったです。

☆手でつかまえたほうがいい！アミでつかまえるのはむずかしい！

☆トンボも日陰を好む？ほどよい風の吹く所、シippoをあげて紐に止まっているのがいつもより多く感じました。ふんばっているのか。

☆トンボは案外多く見られた。ロープに止まっているのを網を横に振って採るのは楽しい。天気良すぎて日陰が無い山頂は暑く真夏の街中と変わらず体に応える。ダウンしない先に体を休めるべく途中でリタイアしました。

☆初めての参加で、全てアキアカネとしか同定できませんでしたが、何とかオス・メスの区別がつくようになったこと、ひとすくいの網の動きで最後は2頭が同時に捕えられました。暑さの中ホットな体験で、あっという間の一日でした。山頂の風は気持ちよかったこと、お世話をかけました、有難うございます。

☆ロープウェイ降りたら予想より涼しさが少なく日差しが強く、トンボも少なかった。リフト横に行き調査開始すると飛んでいる数がやや少ないが、直射日光が強くトンボは日陰にかくれていました。



秋のアキアカネ調査の予告です。

別刷りで案内を送付しますので参加予定お願いします。

日時 10月13日(土) 13:30 集合、約1時間調査、15時頃解散

場所 大津市伊香立南庄町 「融(トオル)神社」駐車場集合

2. ミノムシ（オオミノガ）との出会い

FRS 津田國史

それはことし炎暑のはじまりだした7月4日午後2時半ころだ。

雨後の野洲川右岸堤を遡上して、新庄大橋に近くなった折、足元に、法面の草地から出てきたのか？なにやろうごめくゴミがあった。雨が洗い流した路面にそれだけが異物として眼に付いた。

橋を渡るには（車・歩道に出る）、緩い坂を上った正面に設置されているゲートの横をすり抜けねばならぬので足元を気にする。ゲートが無ければ気付かずにいたかもしれない出会いだった。

雨水は塵埃をゲート側から、緩やかに河川側に流すので、路面にはこのゴミだけがあった。はじめ見たとき、法面から枯草が丸まって路面に流れ出たと見ていた。

気になったのは形態が紡錘形で、枯草の向きが揃っていること。ミノムシだ！
しかもその紡錘の先端に異物が少し見え、ゆっくり河川側に蠢いているとあってはこのまま見過ごすわけにいかない。

ミノムシと閃いたのは・掲示板91号（P7ーP12）「これってミノムシ？」ファールおばさんを読んでいたからだ。そこに掲載されたミノムシの写真は、まさにこの紡錘型・草異物と全く同じだ。

それに足元の紡錘枯草の先端からは、オオミノガが少し頭を覗かせているのだ。
かつて、百姓が雨の野良仕事に着ていた蓑を思いださせるではないか。
このミノムシ（オオミノガ）を記録に撮った



枯草で作った蓑



頭を出したオオミノガ



法面に置いたミノムシ

ファールおばさんが自宅の壁面で撮った、ミノムシの生態記録は、ぶら下がっているのもので、いかにもミノムシだ。

だがこちらは雨上がりの路上に転がった枯草としかみえない。ここへ出るまではどこにぶら下がっていたのか。このあたりでぶら下がるものは、侵入止のゲート構造しかなく、他は短い草ばかりでぶら下がれないはず。写真の後、踏まれないようまたどこかにぶらさがれよと、草地に置いてきたが、お節介だったかな。

あれから2ヶ月いまだに再会は果たせてない。

3. 今年のセミ 雑感

Big くり

◇おーい、ヒグラシ 出ておいで

夏は、セミの声で目が覚めます。朝早くにヒグラシがカナカナカナカナと鳴く声は、すがすがしくて気持ちのいいものです。でも今年は、その鳴き声があまり聞えませんでした。朝と夕方に起こる大合唱が、辛うじて聞こえてくる程度の少なさです。7月の度重なる大雨が関係しているのか、それとも暑すぎて鳴けなかったのか、どちらにしても心配です。

♠ ミンミンゼミがいる場所

県内のあちこちで、ミンミンゼミの声を聞きました。8月19日に高島市朽木で、8月26日には東近江市南花沢町、愛荘町軽野、そして長浜市南浜町で耳にしました。8月後半ですので、いずれの場所でも、ミンミンゼミとヒグラシの声が入り交じるほか、アブラゼミもわずかに鳴いていました。

私は、滋賀県では山手にミンミンゼミがいるものと思っていました。でも、今回声を聞いた場所は、朽木は山の近くですが、南花沢と軽野は完全に平地、そして南浜は湖岸です。ミンミンゼミの生息地は、山の近くに限られるのではないようです。ところで、鳴き始めはいつ頃なのでしょう？ フィールドレポーターで調べてみたいです。

♡写るんです！ 判るんです！

ミンミンゼミが鳴いている場所で、セミの抜け殻が桜の木についていたので、ひょっとして？と期待して、抜け殻からの種の見分けに挑戦しました。

まず、見分けのポイントとなる触角をカメラで撮影し、写した部分を拡大表示します。見分け方の資料はネット上にたくさん公開されているので、資料を探し出して映像と見比べながら、大型のセミ→触角が7節→毛が多い・第3節が第2節の1.5倍の長さに進んでいくと、アブラゼミにたどりつきました。ミンミンゼミではなかったけれども、デジカメとネットのお蔭で素人の私でも見分けることができました。すばらしい！



♣ ツクツクボウシ 早すぎるよ！

7月中旬から最高気温 35℃前後が続く中、7月31日に1匹のセミが「ボーシ……ボーシ……」と、たどたどしい声で鳴いていました。鳴き方は下手ですが、ツクツクボウシです。例年はお盆ごろから鳴き始めるので、よほど慌て者の個体が間違っただけだろうと、その時は思っていました。でも、8月に入るとあちこちから鳴き声が聞こえるようになり、早々に、ツクツクボウシのシーズンに突入してしまいました。

7月に出現するセミは、地温が羽化のきっかけになるのかなあと思うのですが、夏の終わりに出てくるツクツクボウシはどうなのでしょう。盛夏が過ぎて地温が下降するのを察知して出てくるのではなく、他のセミよりも高い地温で出てくるだけかもしれませんね。

4. 「オオキンケイギクを調べよう」 中間報告

FRS 梶島昭紘

夏に身近な野原や道沿いなどに、草丈 1m 前後の黄色い菊のような花が咲かせるオオキンケイギクを調査して頂きました。オオキンケイギクは生態系に対する影響が大きい外来種であることから、平成 18 年 2 月 1 日から「特定外来生物」に指定されました。すでに滋賀県下でも調査されていますが、この調査でどのような環境に分布しているか、どのような草と混生しているのか、どのように広がっているのか情報を公開して、「特定外来生物のオオキンケイギク」の問題を考える目的で調査しました。調査期間は 4 月末～7 月末です。



調査の参加者 22 名、発見報告の数は 228 件でした。1 人で沢山の発見報告を寄せて頂いた方もございます、有難うございました。調査票—1 の集計結果を、中間報告します。

1、発見地の分布

図 1 です。 全県で見つかると言えそうです。

2、見つけた環境、

図 2 です。多い順に道路が 50%、河川 23%、市街・住宅地 17%、公園 5%、農地 3%、その他 2%です。

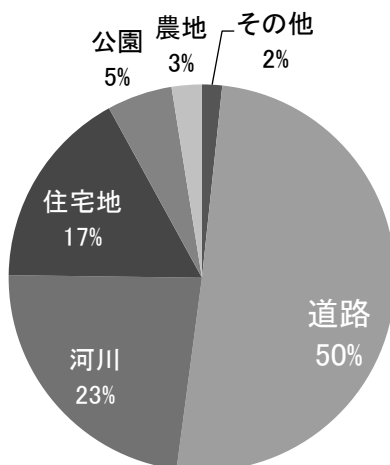


図2. 見つけた環境

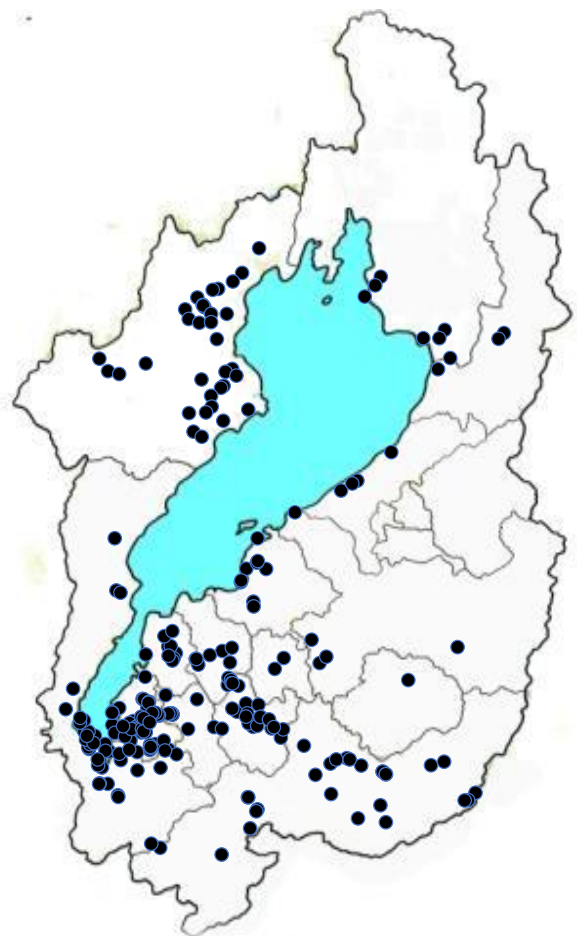


図1. オオキンケイギク発見報告地点分布

3、集団の大きさ

図3です。帯状に長く広がる場合が多い。 数株の所も多い。

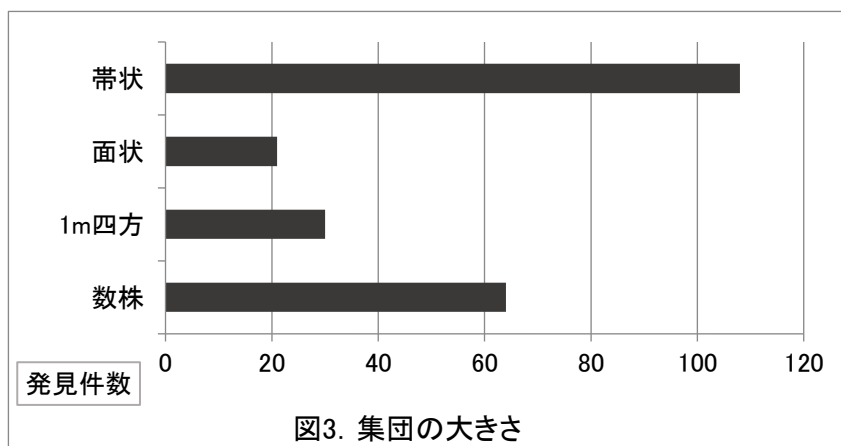


図3. 集団の大きさ

4、草刈り頻度

図4です。草刈の頻度の多い所に広がっています。

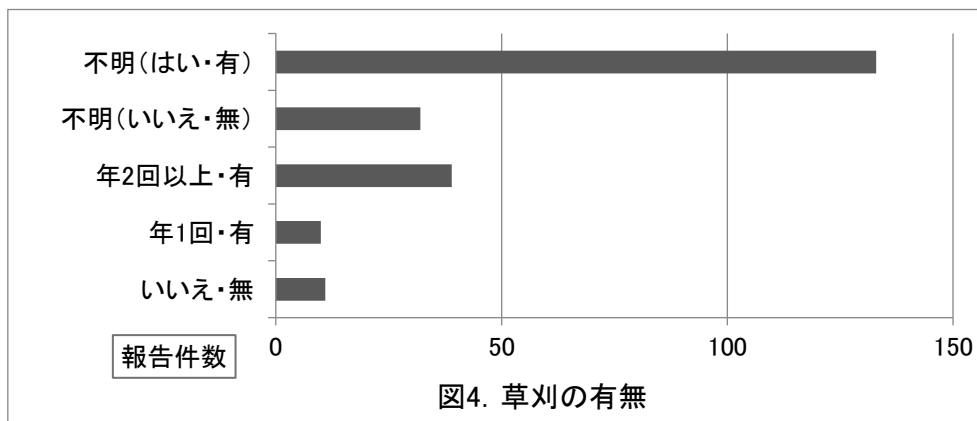


図4. 草刈の有無

5、混在する草

図5のとおり、ヨモギ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、ススキ、コバンソウなどが混在しています。他の草がない所もかなりあります。

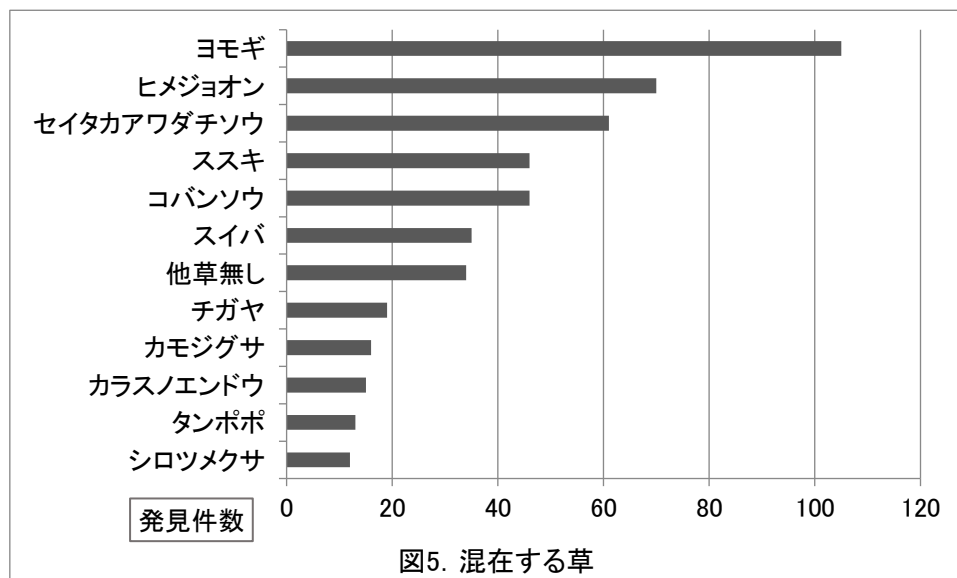


図5. 混在する草

5. 草津川跡地公園ほか草津市

フィールドレポーター
久保和友

西日本大水害の新聞に倉敷市真備町の電柱などが、すっぽり水の中で広々とした写真を私は見ていて 30 年前の草津そっくり姿を思い出した。町の真ん中を流れていた天井川だった。よく決壊した。私の家はいつも床下まで水が流れた。それが いまは新草津川の完成でなくなった。

7 月の終わり、岐阜県多治見で 40 度、京都市内で 39 度という猛暑が続いた。

私の家から JR 草津駅トンネル付近から本陣のある市役所に近い坂をのぼった。朝が早かったので 水を使う 3 つのアトラクションはまだ開かれていなかった。

国道 1 号線近くにあった内科、外科の名医が居られた病院も姿を消していた。



決められた時間になるとイベント広場では噴水が豪快にしぶきを上げます。
水着を着て準備してきた子も普段着の子も大喜び。 (写真・中野敬二)

10 月 20 日（土）に秋のイベントで野外映画祭やライブパフォーマンスショーが開かれる予定も見た。レポーターとしてまた歩いてみたい。

※ 訪問記 ※

F R 久保さんから情報を頂き大変楽しそうな内容でしたので現地取材をすることにしました。取材は 8 月 18 日朝 9 時半から 12 時。JR 琵琶湖線草津駅東口が出发点。駅前商店街の中にある旧東海道を南に向かって歩いて行くと旧草津川の土手下につきました。川の上にはエレベーターや大きな階段を使って上がれるようになっています。上がったところが丁度イベント広場です。ちょうど「噴水とあそぼう」というイベントが始まるころでした。最初はゆっくりとした噴射でしたが、5m 近く上がった最後の噴射は豪快にして爽快でした。参加したみんなが一時暑さを忘れるひとときでした。

6. 「de 愛ひろば」 見聞

FRS 中野敬二

人との出会いは思わぬ所にあるものです。

草津川跡地公園の写真撮影をしていますと、来園された方にいろいろ説明をされている女性がいっぱいいました。偶然目が合いまして“アラッ！”ということになったのです。

実は琵琶湖博物館「はしかけ」の「ほねほねくらぶ」で永らく責任者をなさっていた山中祐子さんでした。現在この公園の所長さんです。

お邪魔してよいかと言いますと快く了解して頂き、活動棟（管理事務所）でお話を聞くことができました。報道関係者気取りで、草津川跡地公園の成り立ちや市民との関わり、今後の活動についてレポートさせてもらいました。

当方に予備知識が全く無かったのですが、運営全般を実践しておられる大西善二郎さんがとても丁寧に説明してくださりよく理解できました。そのうえ、園内の案内までしていただき目、耳、足の体験となりました。



イベント広場で園内案内をする山中所長

天井川としての草津川をどのような形で市民のものにするか、永らく草津市と市民の課題であったところ、平成 24 年に跡地活用を考える市民参加型のプロジェクトとして「くさねっこ活動」が発足されました。登録者約 90 名で現在活発に活動中です。この中で 13 名の方が運営チームとなり日常運営全般を取りまとめられているのです。全体の予算は草津市の拠出で、造園と集客対応の構成をする民間企業が参画している“草津川跡地公園パートナーズ”が総合運営をしているという姿です。

天井川としてのイメージを生かし、草津市ならではの意味合いを含め、あくまで市民のものとして多様な賑わいを創出していくのが目標だそうです。



公園全長 900m。

緑と水を融合させた憩いの空間を創造。

愛称「de 愛ひろば」

総合計画の（区間 5）

『人の流れを 川の流れのように』する、が運営に携わる仲間の気持ちですよ、と目を輝かせて大西さんは説明の結びとしてくださいました。

活動は始まったばかりです。大いに活躍していただきたいと思います。

山中所長さん、管理事務所の皆さんどうもありがとうございました。

〔 * 当記事の内容および写真の掲載は管理事務所の了解を頂いています。 写真：中野敬二 〕

7. 滋賀県・考

近江心気郎

私は船に乗って琵琶湖の南北を行き来する仕事を一時期経験しました。

その時思ったのは湖のどの位置からも三上山がとて近くに見え目立つ存在であるということです。湖岸のビルは気になりません。近江富士と琵琶湖は常に一帯であると感じたものです。

そして今年、アキアカネの観察会に参加し琵琶湖バレイにゴンドラで上がりました。約45年ぶりです。1970年初めと記憶しています。サンケイバレイと言い、カーレーターなんていう当時としてはおしゃれな乗り物でゴトゴト・ゴトゴトと雪山をのぼった記憶が蘇ります。

山の上は寒いと聞かされていましたが結構暑かったです。それでも下界は体温を超える猛暑でしたので此处は別天地でした。しかも快晴。琵琶湖がクッキリ絵のような見えました。ちょっとベタな表現ですネ。そして此处でも三上山がとても良いところに位置しているのを実感しました。近江富士と琵琶湖の一帯感がすばらしい。これが滋賀県と感じた次第です。

そのとき浮かんだのが これ。

比良の峰ゆく 白い雲
緑に映える 琵琶の水
機織る町に稲刈る村に
今日も平和の 日はうらら



さあ皆さんこの歌を知っている人！

手を上げてください。パラパラですネ。

じゃー、歌える人。・・・シーン・・・。

この後 2 フレーズつづきます。

うるわ
美しの滋賀 明るき滋賀

讃（たた）えんわれらの 伸びゆく滋賀を

これ、わが「滋賀県民の歌」「県歌」です。

友達に聞きました。知りません。小学校の孫に聞いても知らないし歌ったこともないということです。わがよめはんも「そなんあつたの」というしまつ。実は私もしらない。

県主催の催しで、「さあ斉唱お願いします」と言われたら当惑するでしょう。

全3唱は格調高く滋賀県の生活・環境が歌い込まれています。1唱目の「・・・機織る町」は“はたおるまち”とうたいます。いまそんな姿、状況が観察できるのかと思われる方がいるかもしれませんが、先般所用で長浜に行きましたところ、JR長浜駅からあまり離れていない町中で、昔聞き慣れたボタン、ボタンという浜縮緬工場からの“はたおり”の音が聞こえました。

県内各所、新しく変貌する姿ばかりが目につきますが、滋賀県の伝統を残す生活圏や日常の営みが今でも繰り返されていることを実感し、少しホッとした夏の昼過ぎでした。（完）

「“にいやん”とこに、珍しい人が“きやんすん”で、みんなで“いこまいか” いうて“いたら”

“じゅんじゅん”食べさしてもろたワ」 <正確に発音できる人いらっしゃいますか？>

古関祐而：作曲
蓼沢 獺：原作
西条八十：補作

8. ディスカバリールームが復活し、おとなのディスカバリーが新設されました

FR 担当学芸員 大槻達郎



生物の多様性が実感できる豊富な標本

今夏7月6日に琵琶湖博物館は第2期リニューアルオープンをしました。リニューアルの目玉は「ディスカバリールームの復活」と新展示「おとなのディスカバリー」です。今回は「おとなのディスカバリー」に絞って、ご紹介します。

「おとなのディスカバリー」は、大人の探究心に応え、学びと発見をしていく国内では初めての空間です。「見る」から「使う」博物館へ、大胆な展示を試みました。オープンラボが新設され、学芸員が研究について実演形式でわかりやすく伝えるだけでなく、「はしかけ・フィールドレポーター」などの活動に使うことができます。また、多くの標本を展示してあるので、我々学芸員としては、生き物好き、鉱物好きには時間をかけてじっくり観察もらいたいと思っています。さらに、生き物をスケッチできるコーナーがいたるところにあります。スケッチを家族のコミュニケーション・ツールとして使ってみてはいかがでしょうか。



オープンラボ

図書館の本は書庫に移動してしまうので、これまでのように本棚を巡って、様々なジャンルの本を見て回るのは難しくなります。もちろん、司書の方に書庫から本を取ってきてもらうことだけでなく、「おとなのディスカバリー」の中にも様々な図鑑がおかれることになるので、新空間ならではの図書の活用法を発見していただければ嬉しく思います。

一昨年琵琶湖博物館は開館20周年を迎え、世代がひとつ回り、子どもだった方はお父さんお母さんに、開館当時はお父さんお母さんだった方はおじいちゃんおばあちゃんになり、今でも琵琶湖博物館に足を運んでくれることを本当に嬉しく思います。子ども達が楽しんでくれるのはもちろんのこと、大人のみなさんには開館当初の博物館のことを思い出し、大人ならではの「時の流れと自分の歩み」について思いを馳せながら、博物館の楽しみ方を見つけていただけると嬉しく思います。

速報

びわ博フェスにどうぞ

日時： 平成30年11月18日（日曜日）

13:00~15:00

場所： 実験室2

内容： みんなで秋を満喫しましょう。
お楽しみがいっぱい。

詳しくは10月に連絡します。

7月～9月の活動報告

月	日	内 容	参加者	主な議題・活動
7 月	7 日（土）	定例会	10 名	① 橋の調査レポート進捗状況 ②オオキンケイギク報告内容の検討
	21 日（土）	定例会	8 名	①アキアカネ調査日の詳細確認②オオキンケイギク調査中間報告③びわ博フェス参加内容の検討④橋の調査まとめ検討
8 月	4 日（土）	アキアカネ夏の調査	17 名	①びわ湖バレイ；打見リフト横登山道 ②頭数と雌雄確認、マーキング
	18 日（土）	定例会	11 名	①掲示板 92 号内容調整②アキアカネ調査報告 ③オオキンケイギク調査、経過報告 ④橋の調査まとめ結末に向けての検討
9 月	1 日（土）	定例会	10 名	①掲示板 92 号最終調整 ②橋調査のまとめ報告 ③次回テーマ選定④びわ博フェス参加確認
	15 日（土）	定例会		FR 掲示板 92 号発送

H30年 10月～12月の活動予定

日	時	内 容	場 所
10 月	6 日（土） 13：30～17：00	定例会	交流室
	13 日（土） 13：30～15：30	アキアカネ調査	融（トオル）神社前
	20 日（土） 13：30～17：00	定例会	交流室
11 月	3 日（土） 13：30～17：00	定例会	交流室
	18 日（日） 10：00～17：00	びわ博フェス、定例会	実験室、交流室
12 月	1 日（土） 13：30～17：00	定例会	交流室
	15 日（土） 13：30～17：00	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13：30～17：00に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編集後記

例年にない猛暑の中でも、FR年間行事は順調に進み成果を上げていることをお伝えして締めようとした正にその時、台風21号の滋賀県直撃が発生しました。レポーター各位のお宅は大丈夫だったのでしょうか。災害は忘れた頃に来るものという

のは過去の話。この頃は常日頃が災害と背中合わせの世に成っているようです。（中野）



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001 草津市下物 1091
TEL 077-568-4811（代）FAX 077-568-4850
Email: freporter@biwahaku.jp